

1. 本園の教育保育目標

保護者の協力を得て、多くの良質な体験を通して自信を持たせ、園児個々の成長目標を達成する

- ・心情(Feeling)の豊かな子ども…「感情表出」「愛情」「他への理解」「申告意欲」「試行意欲」「連帯意欲」「正義感」
- ・態度(Manner)の良い子ども…「挨拶」「謝罪」「感謝」「懇願」「自己責任」「選択責任」「勝者の義務」
- ・自主的に行動(Behavior)できる子ども…「規律遵守」「忍耐」「勇気」「責任感」「委任追従」「自己主張」「自己顕示」
- ・個性(Identity)豊かな子ども…「演出表現」「演技」「言語」「心情表出」
 「絵画制作」「興味・関心」「集中・熱中」「創造・想像」
- ・健康(Health)な子ども…「運動・体力」「走・跳・投」「泳・潜」「持久意欲」

2. 今年度、重点的に取り組む目標、計画

少子化、コロナ禍を経て社会の流れや価値観は変わった。誠に必要とされる機能以外は存続できない。更に我々の労働集約事業は、個々の職員の『向学心』『探求心』『人間性向上』こそが機能の源泉であることから、その為のあらゆる個々の専門職としての自己改革を行わなければならない。

- ・自組織体(園)の強み弱みを分析し強みは確固たる特性へ極める方策を、弱みは解消へ個々職員が実践する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目(課題)		取り組み状況
①	組織としての弱点、強みの分析と強化	《自園の強み》 ・子ども達一人ひとりに合わせた指導で、一人もこぼさない保育・教育だけではなく、遊びも同時に時代に合わせた進化を続けている ・子どもの成長に真剣に向き合い、職員間でも、保護者様ともしっかり共有 ・連携し喜びを分かち合える ・ビュッフェ:メニューの豊富さ 《自園の弱み》 ・自分で考える力、コミュニケーション力(挨拶、会話術など)、時間の確保、チャレンジ精神
②	デュアルプロジェクトの強化	R7年度5月からFUNDAYの日に園外活動も取り入れた。子ども自ら行きたい場所を考え歴史建造物を見に行く等、様々なことに興味関心を持ち年長児が中心となり意見を発言してくれている。デュアルプロジェクトの考えを職員全体に浸透させるため担任リーダーを中心に理解度を図る為の話をし意識統一を行った
③	専門職としての個々の自己改革	カンファレンスでお子さまへの対応事例を学び、職員一人ひとりが、自身の保育に水平展開して、保育力や人間力の向上に努めている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度デュアルプロジェクト実施2年目として、さらに活動の幅を広げて実施してきた。幼児組では毎週水曜日のFUNDAYが園児にも定着し、曜日感覚を身に着けて、「今日は何曜日」「水曜日まであと何日」とカウントして待ち望むほどの成果である。特に、活動内容では、園児達の発案による園外活動を実施し、さらにワクワク体験の機会になるとともに、意欲、行動力の向上にもつながっている。これは、遊び部分だけではなく、行事に向かう姿勢や理解力、集中力にも大きな変化として現れていることを感じる。健康祭、劇発表、音楽祭、どの行事も子ども自らやる気になって自信をつけている姿に加え、使命感のような真剣さを感じた。また、乳児組では、乳児期における「あそび」と「教育」の両輪をどう考えるか試行錯誤し、1日のデイリープログラムを見直して夢中になって遊べる「あそび時間」と「あそび環境」を新たに改革すること、「遊んでいたら育っていった」という結果につながるように、幼児期までの育ちを見据えての取り組みを実践するなど、乳児版デュアルプロジェクトとしてもさらに進化している。職員が同じ方向を向き、一丸となって取り組めるようになった今、次年度はこういった成果をさらに実証する取り組みを新たに考案し、ステップアップするための大きな変化が必要だと考える。職員間でアイデアを出し合い、園内での取り組みにとどまらず、衣笠幼稚園の魅力を発信していくことにも注力していきたい。

5. 今後取り組むべき課題(次年度へむけて)

課題		具体的な取り組み方法
①	個々の職員の専門職として『向学心』『探究心』『人間性向上』	研修プロジェクト(施設見学、勉強会)を実施し、意識改革、スキルアップを行う。
②	各業務の多面的な見える化を推進	教育保育、給食、保健それぞれの活動の意味を再認識し、保護者様とも共有できるようにインスタグラムを活用して見える化を実施する。
③	園内美化の強化	一歩進んだ対応、一歩進んだ気持ちの意識改革を各部署で行い、全職員で適宜環境整備、美化活動を行う。
④		

6. 学校関係者の評価

理事会での理事長の本年度の目標及び事業計画を、皆様にご理解していただきたいと思えます。
 ①. 職員 各一人ひとりの専門職としての「向学心」「探究心」「人間性向上」を皆様に見える化する方法を推進する方向で考える。
 ②. 職員の一人ひとりが誇りと榮譽をもって働き、それに伴う実益を得られるようにする。
 ③. ビーンズクラブ・児童館事業の活動特性を生かし良質な継続的サービスの拡大化・見える化を推進する。
 このようなお話がありました。
 特に保護者の皆様に『見える化』を推進し、安心して園児様をお預けいただけるようにとの事です。

大五洋の経営状態ですが、理事長・職員の努力と保護者の皆様のご理解とご協力のもと大変な時代に突入した(過去に類を見ない少子化)昨今ですが、なんとか順調にきている様子です。しかし、少子化は進むのが確実です。これからも必要なものは削らず、無駄はなくしてより確実な経営を目指すとのことです。みなさまのご理解をよろしくお願いいたします。

我々としては、理事長・職員各位の努力と向上心を全面的に支持し、保護者様に安心できる場所として大五洋がますます発展することを期待して、報告を終えます。